

Let's Know Hiroshima Castle.

# しろや！ 広島城



No.29

## 城のしかけ もしも 広島城が攻められたら・・・

そもそもお城とは、難しい言葉で言うと「軍事目的をもつ<sup>ぼうぎょしせつ</sup>防御施設」。敵の攻撃から領地や領民を守るための基地でした。ですから、城には守るためと攻めるためのさまざま仕掛けがありました。広島城も例外ではありません。

三重に巡らされた堀は、ゴミを捨てたり、鯉を飼うために作られたわけではありません。防御の目的だけを考えれば、城は本当は山の上にあった方が都合がよいのです。でも、広島

城は便利さを優先させて日本三大平城のひとつに入っているくらい真っ平らな土地に造ったので、たくさんの堀を巡らせた上、自然の川も利用して城の守りを固めました。

城にはつき物の石垣が築かれ、その上には堀<sup>やぐら</sup>や櫓という建物を建ち並べました。櫓は見張りと同時に攻撃するための建物です。広島城にはその櫓が88もあったそうですから、固い守りの城であったことがうかがえます。

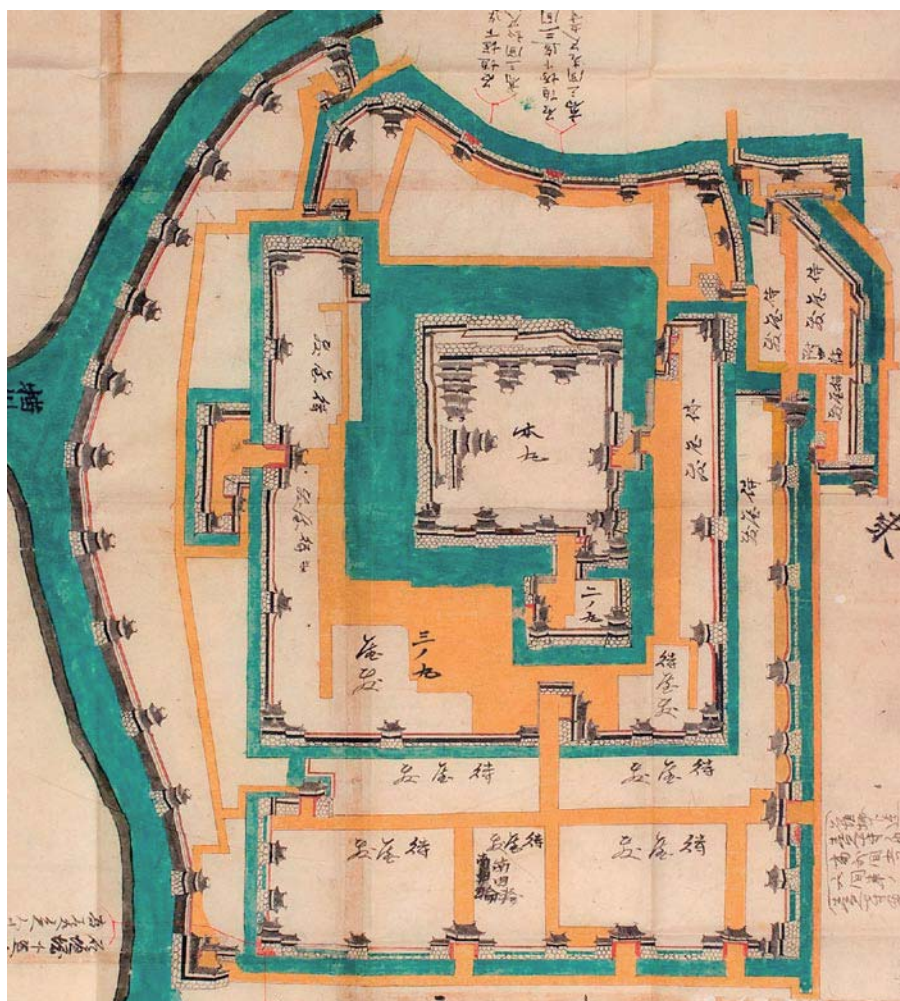


写真1 安芸国広島城図  
(広島城蔵)



写真2 「芸州広島図」(広島城蔵)に描かれた広島城、櫓がたくさん並んでいます。

では、もしも広島城に敵が攻めてきたら、いったいどんな仕掛けで守り、攻撃したのでしょうか？細かいことは抜きにして・・・、敵軍が内堀の手前まで侵入してきたところから話を始めましょう。

まず、果敢にも堀を泳いで渡ろうとする者たちがいますが、広島城の堀は広いところでは幅がおよそ100メートルあります。重い武具をつけた上に武器を持って渡るのはたやすいことではありません。それに、堀にあけられた穴からは火縄銃(鉄砲)で狙い撃ちされます。そうです、堀の四角や三角の穴はモダンな飾りではなかったのです。「狭間」という火縄銃や弓矢で攻撃するための穴でした。

100メートルというのは、火縄銃でぎりぎり狙って撃てる距離です。石垣の上から矢を放ってもそれくらい飛んだようなので、おいそれとは堀に入ることはできませんでした。

また、広島城の石垣は上から見ると、ところどころデコボコしてたり、ノコギリの歯のようにジグザグな形をしています。これには理由があります。石垣を登ろうとする敵に、横方向からも攻撃することができるのです。「横矢掛かり」と呼ばれる仕掛けです。

一方、正攻法で橋を渡り、表御門や裏御門を破ろうとする者も、門の上に造られた櫓から攻撃され、簡単には中に入ることができません。

おっと！表御門を突破して敵兵が二の丸にだれ込みました。そして本丸へ進もうとしますが、本丸側からも容赦ない攻撃を受けます。やっ

と土橋を渡り中御門近くに来たところで、壁に囲まれ一瞬行き止まりに見えます。この部分は「枡形」という仕掛けで、カクンと直角に曲がる形に造られているのです。通路を折り曲げて直進しにくくし、待ち伏せして総攻撃をかけることができます。中御門の前で立ち往生したところに、四方から雨のように矢が降り注ぎ、次々と折り重なるように倒れる敵兵・・・。結局誰ひとりとして本丸までたどり着くことはできませんでした。

北西からの攻撃は天守閣で防ぐのです。広島城の殿様は住まいである御殿から、重臣とともに天守閣に移動して指揮をとっていました。天守閣の中はとてもうす暗く、殺風景でした。広島城の天守閣は普段は物置として使われていて、人が入ることはなかったのです。

これはいけません、命知らずの敵が一人、矢玉をかいくぐり天守閣直下まで来ていました。そして静かに石垣を登り始めました。でもよりによってそこは「石落とし」の真下でした。文字通り上から石を落され石垣から真逆さま。大けがをしたものの、堀に飛び込んで命からがら逃げて行きました。命知らずではなかったようです。「石落とし」というのは壁が出っぺいて、石垣を登ろうとする敵に向かって石などを落としたり、弓矢や火縄銃で撃退するための仕掛けです。

しかし実に危なかったです。もし天守閣まで到達していたら、そして火なんか放たれたら広島城は一巻の終わりでした。一人だけでよっ



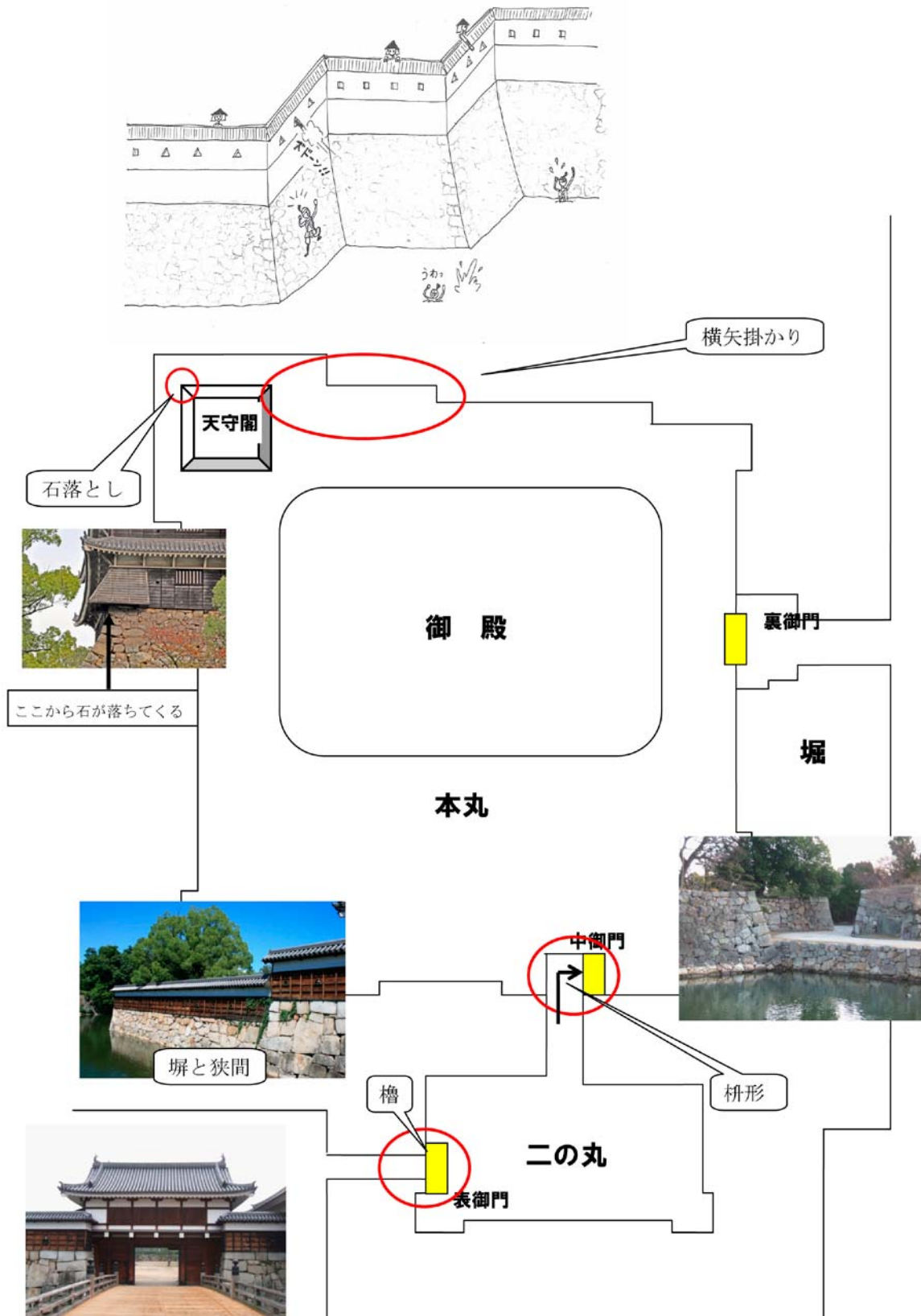
たですね。天守閣は城の最後の砦<sup>とりで</sup>でもあり、城主がそこに入るとは負け戦をも意味したので、殿様は相当落ち込んでいました。

こうして広島城は事なきを得ました。いつまでも落ち込んではいられません。殿様はこれを

機<sup>けんこ</sup>に城の造りや仕掛けを見直し、より堅固な城に改修させるとともに、家臣も気を引き締め、戦に備えました。

あ、でも安心してください。本当は広島城では戦はおこりませんでしたから。

(岡野孝子)



# せきひ この石碑なんて書いてあるの？



城についてまだ勉強中！



歴史や城になんでも詳しい

●● これ、何て読むの？ →

●● 毛利元就の居城があった郡山城のふもとにある碑だね。百万一心＝「ひゃくまんいっしん」と読む。でも百と万の字が変だろう！分解して読むと一日一力一心＝「いちにち・いちりき・いっしん」とも読めるようになっているんだ！

●● これにはどういう意味があるの？

●● 百万人を一つの心に、という意味だ。毛利元就が、郡山城（安芸高田市吉田町）を大きく造り変えた時、「城を守る時は、みんな力を一つにしないと守れない。人の和・協同が大切じゃ」という思いで石に刻んで埋めたとされている。

●● どうして埋めたの？

●● しろとくんは人柱ひとばしらを知らんか？お城を建てる時、いけにえに人を埋めて、城が無事できるように祈ったんだ。戦国時代にはよく行われて



いたんだ！

●● そんなむごいことを・・・

●● でも、毛利元就は、そんなことをせず、百万一心と刻んだ人間の背丈くらいの石を埋めたとされている。人間を犠牲にせず、碑を埋めることで、人々の気持ちを一つにしたんだ！

●● なるほど！これが埋めた石の本物なの？

●● 実はちがうじゃ。江戸時代の後半に、長州藩士・武田泰信たけだやすのぶが郡山城に登った時に、埋めた石を見つけて文字を写し取ったとされているものが、山口市の豊栄神社とよさかに残されている。写真の碑は、これを元に1931年に作られ、郡山城のふもと・毛利元就の墓の近くにあるよ。

●● これはすごいね！行ってみたいな！

●● でも、埋められた石は見つかっていないし、毛利氏の文献などの記録には残されていないので、本当に石を埋めたりしたのか、わからないけれどもね・・・

(玉置和弘)



240円で  
販売中  
百万一心  
クリアファ  
イル (A5)

しろうや  
!  
広島城

編集・発行

財団法人広島市未来都市創造財団  
広島城

〒730-0011  
広島市中区基町 21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519

平成23年9月27日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00  
(12月～2月の平日は9：00～17：00)  
入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円(280円)  
小人180円(100円)  
( )内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト

📄「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます